

## ウォーキングで知るおもしろい現実（その二）

（年取るといふこと日誌から）

CL教育研究会 遠間美保子 amhotm@gmail.com <http://doel.jp>



2009/01/4

車を運転しているとき、細い道で人とすれ違う。歩く人を止まらせ待たせて、「すみません」と頭を下げ、通過する。自分が歩みを止めて車が通り過ぎるのを待つ。運転者が「すみません」と頭を下げる。先を譲った方が嬉しく満足なのは自分が他の人に役立ったから。譲られた側は相手に迷惑をかけずまなく、一本取られた気分。

2009/01/16

一軒の家からお母さんと連れ立ってでてきた三歳ぐらいの男の子が、お菓子を口に入れてもぐもぐしながら、通りすがりの私の顔を見上げて、薄笑い顔でペコッと会釈したしぐさに会釈を返しながらいがこぼれる。男の子と私の無心のコミュニケーション。

2009/01

近頃、自分や回りの家族に「あれ、あれ」表現が増えている。高齢になってきたせいと考えていたら、ウォーキングの最中にすれ違う高校生の会話からも、小学生の孫、若い女性、男性からも耳にする。

あれ1. 高校生「この間のあれさ、お前知ってた?」「ウン、あの先生はあれだってよ…」「やっぱりなー」これで通じる仲間同士、いいなあ。

あれ2. 知人からの電話に出た夫。知人の手作り野菜が今年は思わしくなかったとのこと。さらに「今年はあれが…、暑かったからだめだったって…」私「(わからないけど) ふーん」。

あれ3. 孫「ばば、あれ知ってる?」「あれって?」「アルセウス」「恐竜のこと?」「ちがう、ポケモンのあれ」「…? (もっとわからない)」。

2009/01/23

住宅街の路地で小1、2年の男の子が3歳ほどのぶっくらとしてスカートを履いた妹に野球を教えている。「こっちを見てごらん」とお兄ちゃんは、バットを右に構えお手本を見せる。お兄ちゃんの方を見てバットを抱えて同じ方向に向いた妹はお兄ちゃんの前に立つ。コーチは後ろで見えなくなる。おにいちゃんは「そうじゃなくて、こっちを見て!」。妹はくると振り返って、お兄ちゃんのとおりにしようと向きをあちこち向いて、二人はなんとか横並びに。「左足を上げて…」(おっ、一歩足打法か)「こう振る!」。妹も左足を上げるが、バットをふろうとして、両足をふんばり、コーチを見ながらの振りは左から。「そうじゃないよ、見て!」おにいちゃんコーチとかわいい妹の二人の打撃トレーニングは続きます。練習の成果がでるといいけど…。

2009/02/07

ウォーキングの目的地である社寺奥にある宝仏殿の前で体操と深呼吸をする。朝の冷たい木々の空気がおいしく口の中にながれ込む。晴れた空の澄んだ青、古木樹林の緑、花ヒイラギの香り、北風が冷たく柔らかにほほを撫でて通り過ぎ、荒行僧たちの大きな読経の声、私の体は動いている。この一瞬のすべてを五感が一瞬に受け取る。有り難い。さて、戻ろうか。次のなすべきことが待っている。

2009/02/25

冷たい朝、道端で高齢の婦人が二人、電柱の陰でなにやらおしゃべりしている。耳に入った会話「わたし、生意気だけど、毛糸は嫌なのよ」「……」しゃれた黒のフラノのような小さなつばのついた帽子を被った相手が頷いている。「あんたもそう！毛糸は生意気だけどどうもだめなのよ」と相手のことばを繰り返す。生意気の意味と毛糸の帽子の関係を面白く紐解きながら通り過ぎた。(千葉県市川市インストラクター)

 [目次へ戻る](#)